

通し番号	4685
------	------

分類番号	25-3A-14-02
------	-------------

リンゴにおける樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形での栽培への品種適応性
[要約] リンゴ品種のうち、‘王林’は、水平屈曲させた主幹からの側枝が均一に得られにくいため、樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形での栽培に適さない。‘ふじ’及び‘さんさ’は強下垂誘引で、‘陽光’及び‘つがる’は弱下垂誘引で初期収量が多収となる。なお、‘陽光’では側枝の下垂誘引強度が強いと翌年結果枝の発生が劣る。
神奈川県農業技術センター・北相地区事務所・研究課 連絡先 042-685-0203

[背景・ねらい]

主幹を屈曲させ、側枝を下垂させるリンゴ樹形として‘ふじ’を用いた改良ソーレン法が知られているが、樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形での栽培に対する、リンゴ品種の適応性について検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 ‘王林’は、主幹を水平方向に屈曲させると、側枝を下垂する樹形にするための側枝が均一に発生しにくく、樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形での栽培には適さない（図1）。供試した他の品種では同様の現象は確認されないことから、樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形での栽培が可能である。
- 2 樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形でのリンゴ栽培において、強下垂誘引と弱下垂誘引（図2）とを比較すると、定植3年目と4年目の積算収量では、‘ふじ’及び‘さんさ’では強下垂誘引が弱下垂誘引より多収となり、‘陽光’及び‘家隆つがる’では弱下垂誘引が強下垂誘引より多収となる（図3）。
- 3 樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形でリンゴ栽培を行う際、‘陽光’においては、強下垂誘引した側枝は、結果枝発生が少なくなる（図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘陽光’は強下垂誘引では弱下垂誘引より着果位置が低くなる傾向がある。
- 2 本成果に示した供試品種及び‘秋映’以外での知見はない。

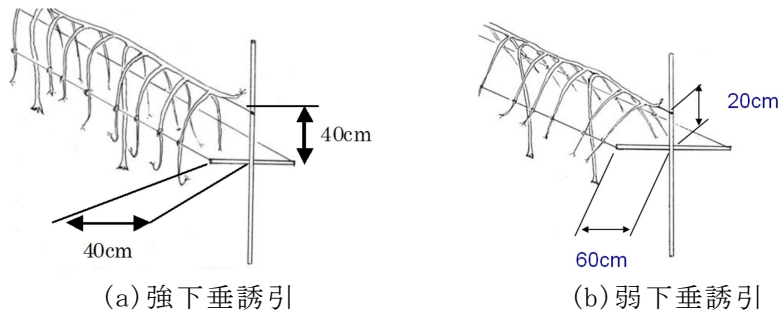
[具体的データ]



(a) 王林

(b) 比較 (秋映)

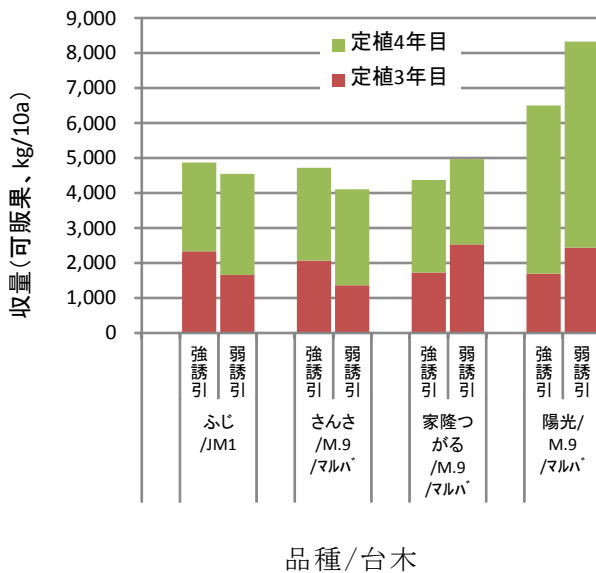
図1 王林における側枝の偏り (H23)



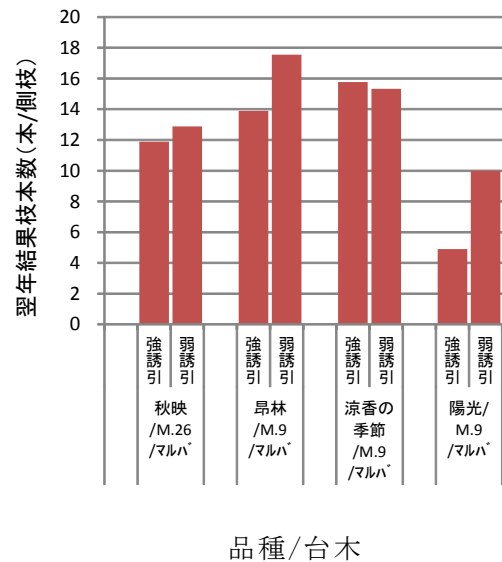
(a) 強下垂誘引

(b) 弱下垂誘引

図2 リンゴの樹体ジョイント仕立てによる側枝下垂型樹形における下垂誘引の強弱



品種/台木



品種/台木

図3 誘引強度による初期収量の違い

図4 誘引強度による翌年結果枝本数の違い

[資料名] 平成24年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書 (茶・園芸作物)

[研究課題名] リンゴの樹体ジョイントによる中山間地直売型栽培技術の開発

[研究期間] 平成23年～平成24年

[研究者担当名] 武田 甲